

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270201348		
法人名	(有)グループホームかいぜ		
事業所名	グループホームかいぜ	ユニット名	
所在地			
自己評価作成日	2022年 10月 13日	評価結果市町村受理日	2022年 12月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topijeyosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2022年 11月 16日	評価確定日	2022年 11月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

コロナ禍が続き地域行事等への参加はなかなか難しいのですが、ホーム内で季節の行事等で楽しく穏やかに過ごされています。面会も越越しやビデオ通話等で工夫しながら行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホームかいぜ”は2022年4月に開設20周年を迎えている。昭和30年代から地域住民の診療をされてきた神谷医院の3階を改装したホームであり、院長先生や施設長（薬剤師・介護支援専門員）、看護師と24時間体制の医療連携が行われている。終末期ケアも行われ、コロナ禍も家族と職員と一緒に誠心誠意のケアが行われている。ホームのリビングから教会のイルミネーションやお寺の桜を楽しむことができ、電車から降りる方の人数を教えて下さる方もおられる。日々の生活で歩行訓練や体操なども行われ、カードタイプの月日や天気、本日の予定（そうじ等）を入居者の方が壁に準備して下さり、テーブル拭きや洗濯物たたみ等の役割も担われている。施設長と管理者が連携しており、職員はケア面や介護技術、勤務希望等の相談をしやすい環境が作られている。今後も入居者の方々の日々の笑顔を増やすために、「食レク」の機会を増やしたり、ホーム内でできるプランターでの野菜作りを検討していく予定であり、家族や地域の方々との情報交換の機会も作っていきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	↓ 該当するものに○印	項目	取り組みの成果	↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)	○
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>管理者と職員は理念を念頭に置いて毎日のケアにつなげている</p>	<p>「笑顔で明るく自分らしい生活を送る為の支援を致します。一人ひとりの人格・個性を尊重し支援いたします。地域に根付いた支援を目指します」という理念を大切にされている。新人職員に理念を伝えた際、「支援とは？」という質問があり、管理者の方々も初心に戻れる機会になっている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>コロナ禍により全ての行事が中止になり交流が難しい</p>	<p>コロナ禍も、保育園児作成の七夕飾りや敬老会のプレゼント（カエルの壁飾り等）を先生が届けて下さり、ホームからも子ども達に駄菓子をプレゼントしている。2022年10月は地域の“おくちのお上り行列”があり、リビングから見送ることができた。コロナ以前は「つんのーで歩行ラリー」や夏祭り、公民館祭りに参加し、作品を出展したり、中学生や高校生の訪問があり、お話やレク等を一緒に行い、クリスマス会や敬老会ではハーモニカ演奏やフラダンス等を楽しんでいた。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>コロナ禍の為地域やボランティアとの交流が減ったため、地域貢献が思うように出来ていない。</p>		
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では(書面)ホームの状況を報告し、意見を頂いた場合は話し合い、サービスの向上に繋げる努力をしている。</p>	<p>2020年4月以降、書面会議が行われている。町内会長には書類を持参し、挨拶をされており、地域包括の方には郵送している。家族の方には全員に郵送し、毎月の取組みを報告している。コロナ以前は、運営推進会議で地域の課題（買物・ゴミ出し等）を検討し、地域に必要なもの（移動販売やボランティア等）の情報交換が行われていた。</p>	<p>コロナ禍の書面会議では、ホームからの発信が主になっている。今後は更に毎回の会議の中で議題を検討し、ご意見を記入できるシートを同封するなど、双方向の会議になる取組みに繋げていく予定である。</p>

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍の為に以前に比べたら対面での相談等は減っている。	2020年の指定更新時、重要事項説明書等の指導を受け、訂正を行う事ができた。入居者の成年後見制度の利用のため、生活福祉課に協力して頂いたり、感染対策のメールも届き、検査キットの配布も受けている。地域包括の方もホームの取り組みを理解して下さり、入居の相談をすることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて研修や話し合いで正しく理解しており本人の行動を抑制しないケアをしている。	身体拘束・虐待防止委員会を行っており、「常に居室のベッドで過ごしたい」と言う方の願いに対し、ご本人の希望と心身状況を踏まえた検討なども行われている。GH連絡協議会の研修にリモートで参加し、職員間で共有している。今後も「身体拘束廃止委員会」と「虐待防止委員会」における議題を検討し、職員間の意見交換に繋げていく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で話し合い入居者の人格を尊重し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	後見制度を申請された方がおられたので関係者と相談しながら出来る限り支援した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約等については十分に話し合い説明を行い理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時にお聞きし対応している	玄関入り口でガラス越しの面会が行われている。日々の暮らしぶりを報告し、家族の不安などを理解するように努めている。LINEを利用できる家族には、動画の配信を行い、とても喜ばれている。電話での情報交換と共に、年3~4回、お便りを作成し、写真も載せている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や通常の勤務時等に個別に意見を聞き反映させるようにしている。	先輩職員からケア技術などの指導もあり、職員の安心になっている。施設長（薬剤師）は職員の負担軽減も目的に、院内処方から調剤薬局での処方に変更し、日々の配薬準備の負担軽減に繋げている。施設長のお人柄もあり、管理者や職員は意見を伝えやすく、職員が自主的にアイデアを出して下さり、管理者も職員の勤務希望を把握し、シフト組みをされている。職員同士の助け合いもあり、良きチームとなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と接する時間を作りそれぞれの良いところを伸ばし向上心を持って楽しく働ける職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの能力に応じて研修会への参加・資格取得の声掛けをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為現在は出来ていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い話を聞いて本人の状況・様子を把握する。不安・要望を受け止め安心してもらえる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望の問い合わせ・面談の段階から電話等で家族の不安や要望を詳しくお尋ねし安心してもらえるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族にとって今何が必要なのかを状況や話の中で捉えホームだけにこだわらず他に適したサービスがないか話し合うようにしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活のなかで本人らしさを引き出せるような関係づくりを心掛けながら本人の出来ることをしてもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後は家族と話し合いをしながら本人が安心して生活できるよう協力体制を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに知り合いが来られた時には事情を説明しガラス越しで面会をしてもらっている。	センター方式を活用し、生活歴やお好きなことなどを記録している。自宅の隣の方が郵便物を持ってきて下さったり、お友達が誕生日プレゼントを届けて下さり、ガラス越しの再会を楽しんでいる。コロナ以前は馴染みの店（モール）に洋服を買いに行かれる方もおられた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は一人ひとりの性格・他の利用者の方々との関係をしっかりと見極め全員が協力し助け合って楽しく生活出来るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した場合も出来る限り相談に乗り不安・心配が少なくなるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人と話しながら把握に努めている。困難な方の場合には家族の話や本人の状況を確認しながら本人本意に検討している。	リビングで団欒している時や入浴時、日々の会話や活動を通して、思いの把握に努めている。センター方式を活用し、以前のお仕事や昔好きだった事、思い等を伺っている。「家族に会いたい」「カップ麺が食べたい」等の願いを叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞き今までの生活歴や環境等を把握するように努めている。		

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の状況・心身状態・得意なこと苦手なこと等は些細なことでもきちんと記録したり申し送り等で全職員が把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人は日常生活の中で家族には面会時に意見や気持ちをお尋ねするが要望をお尋ねしている。	生活歴、身体能力（できそうなこと）、認知能力、役割等をアセスメントし、「朝は起こしてほしい」「しっかり歩くことができる」等、ご本人の要望も記入している。リハビリの視点も強化し、「イージーウオークを使って足首の運動」「廊下を歩く」「体操」「洗濯物たたみ」「テーブル拭き」等も計画に盛り込まれている。日々「介護実施表」にチェックし、適宜見直しも行われている。	今後も3表（日課表）等に主治医や薬剤師、看護師などからの留意点を記載していくと共に、家族との話し合いを増やしていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は日誌に、ケアプランのケアチェック表にケアプランの結果や気づきを記入し全職員が情報を共有し実践・見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて本人にとって必要で安心を得られることを最優先し柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として出来ることを協力し生活を楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は入居者の方はホームの協力医に受診されており事業所との関係も良好で適切な医療を受けることが出来ている。	同じ建物に神谷医院があり、毎週の往診を受けている。神谷医院は外来専門であり、夜間の体調変化時も院長やホームの看護師に連絡が取れる。他科受診や歯科は職員が受診助し、家族と情報共有できている。職員の観察力で、早期対応に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の気づき状況は看護師に伝え不安や心配なことはいつでも相談している。心配な時は看護師から主治医に連絡し適切な診察を受けられる体制を整えている。		

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院先のソーシャルワーカーの方と連絡を取り合っている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に本人や家族にアンケートを行っている。状況に応じてその都度主治医・看護師・家族・職員で話し合いを行いチームで支援に取り組んでいる。アンケートも状態に応じて取り直している。</p>	<p>入居時に「終末期の看取り等について（事前確認書）」、7つの項目のアンケートを元に意向確認が行われている。ご本人にも日々の会話の中で重度化・終末期に対する想いを伺い、センター方式（C-1-2）に記載している。入居者全員がホームでの看取りを希望されており、24時間体制で主治医・看護師と医療連携できている。点滴や酸素吸入等も行われ、看取り時は看護師も一緒に夜勤し、職員と家族と一緒に誠心誠意のケアが行われている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>その都度看護師に尋ねたりマニュアルを使い研修を行い実践力を身に付けるよう努力をしている。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている</p>	<p>年2回の火災訓練を行っている水害などの災害時にはホームに留まり状況を確認し地域と連絡を取れるようにしている。</p>	<p>神谷医院と設備業者と一緒に昼夜想定訓練を行い、夜間想定の際は夜勤専門の方が実際に訓練を行う事もできた。自動通報には消防団OBの方も入り、消防署の方も毎年点検に来て下さる。災害に備え、入居者の薬などを記載した個人票・リュック・軍手・タオル・リハパン・水（ペットボトル18本）・非常食・缶詰・おやつ等を準備し、入居者個々の頭巾等も準備している。災害や感染対策を含めたBCP（事業継続計画）も作成中である。</p>	

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者お一人おひとりを敬いしてあげているという気持ちをもたずにプライドやプライバシーを傷つけないように対応している。	事務所に「やさしいことばで～。同じ目線で～。静かに語りかけましょう～」という標語を貼り、職員は日々確認している。優しい職員ばかりで、言葉遣いにも留意しており、入居者との会話を楽しまれている。個人情報管理(守秘義務)も行い、「写真掲載の同意書」も頂いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話や家族の話などから入居者の思いや希望を受け止め自己決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り入居者のペースに合わせて毎日生活が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の個性を尊重し一人ひとりにあった支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好物を聞いて出すように心がけている。	1階で夏野菜を育て、料理に使われている。朝はホームで、昼夜は下の厨房で作り、季節の料理(旬料理など)を楽しむと共に、ひな祭りは桃カステラ、節句の時期は鯉生菓子を楽しまれた。入居者の方もテーブル拭きやお盆拭き、箸や湯飲みの準備等をして下さり、「カップ麺を食べてみたい」という要望を叶えたり、干し柿作りもされている。	コロナ禍、ホームで過ごす時間が増えている。今後も入居者の方々が培ってこられたお力を引き出すために、「食レク」と称して焼きそばや餃子作りをする機会を作ると共に、ホーム内でできるブランチでの野菜作りを検討していく予定である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量・食事摂取量を記録している。栄養やバランスを考えて提供している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは全員自立されているが見守りながらできない部分はお手伝いをしている。歯ブラシは1か月ごとに交換している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は全員自立されており職員は見守り・声掛けで対応している。	水素水を飲まれ、排便効果が出ている。入居直後から排泄のアセスメントを行い、パッドの大きさ等を検討している。排泄が自立し、布の下着の方もおられ、排泄能力が維持できている方もおられる。ご本人だけに聞こえる声かけでトイレ誘導を行うなど、羞恥心の配慮も続けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように水分補給や食事に気を付け軽い運動もしているが服薬する機会が増えてきている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めてはいるが希望や状況に合わせシャワー浴もいつでも出来るようにしている。	入浴時はお茶の葉湯を行い、菖蒲湯や柚子湯も楽しまれている。入浴時は職員との会話も弾み、職員の悩み相談にも応じて下さり、歌も聞かれている。入浴を拒む方は楽しい会話をしながら浴室に移動したり、失禁時などは適宜シャワーをされている。自分で洗える範囲を洗って頂き、自立支援に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し本人の意思を尊重し自室で過ごされる時間も大切にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成し常に確認できるようにしている。薬日については資料を見たり看護師に聞いたりして理解するようにしている。服薬等に変化があった時には主治医に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	話をするのが好きな方が多く気の合う同士でそれぞれに楽しめる事が多くなった。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為皆さん我慢されている。	1階の病院受診の後、周辺を散歩することもあり、玄関前で栽培する野菜に水を上げる方もおられた。コロナ以前は季節の花見やドライブを楽しまれ、敬老会では恒例の「サンパーク吉井」に行き、家族と食事やフラダンスを楽しまれていた。コロナの状況に応じ、ドライブの機会を作ればと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から預かり本人が希望されるときは何時でも渡せるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族に欲しいものリストを手紙として渡される支援をしている。希望があれば電話はいつでも対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は不快や混乱を招かないように工夫し季節の花や行事ごとの飾りつけをして居心地よく生活出来るように工夫している。	エレベータを降りて左の方向に行くと、リビングがあり、廊下のスペースも活用した空間が作られている。月日や天気、本日の予定などをカードで作成し、入居者の方と毎朝準備している。ホームは建物の3階にあり、リビングから教会のイルミネーションやお寺の桜を楽しまれている。感染対策で空気清浄器を増やされ、換気を行い、カーテンで光の調整もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室が好きな方、ホールで過ごすのが好きな方それぞれの思いで過ごしていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人・ご家族と相談し馴染みの品物を使用してもらい以前の環境に近くなるようにし本人が居心地よく過ごせるようにしている。	ご本人の生活歴を把握し、本好きな方には家族が本を持参して下さい。移動状況に応じて、ベッドの向きや家具の配置を工夫し、ポータブルの前にはカーテンスタンドを置いている。ホームからの誕生日の色紙や飾り物も置かれ、家族の写真も飾られている。	

自己	外部		自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には便所と書いた紙を貼って迷わずに行けるように工夫している。			